

CLOSE UP

ウィルチエアー（車いす）ラグビー日本代表

乗松聖矢さん



のりまつ・せいや 1990年生まれ、牛水上在住。沖縄ハリケーンズ所属。JMU ビジネス・サポート株式会社勤務。趣味はスポーツ観戦と映画鑑賞。

「日本代表として活躍すること、今までお世話になった全ての人に恩返しをしたい」と、瞳を輝かすのは、車いすラグビー日本代表の乗松聖矢さんです。生まれつき手と足に強く力を入れることはできませんが、子どもの頃からスポーツが大好きでした。

車いすラグビーを始めてからわずか1カ月後のことし1月、日本代表に選出された乗松さん。「とんとん拍子すぎた少し怖い」と、苦笑いを見せますが、仕事と両立しながら、最大限の努力をしてきました。

「基礎を徹底すること地道な練習は不可欠なんです」九州には車いすラグビーチームがないため、普段は一人で練習しています。所属するチームがある沖縄と代表合宿が行われる埼玉での月に1度のチーム練習を励みに、自分でトレーニングメニューを考え、毎日体を動かしています。

「もつと頑張っておけばよかったと後悔したくない」乗松さんは練習でも試合でも常に全力です。進行性の持病※と闘いながら、かけがえない「今」

を大切に生きています。

車いすラグビーの面白さは全速力で走ってぶつかり合う激しさにあります。体格を生かしたタックルを得意とする乗松さんはいつも傷だらけです。それでも「ラグビーが楽しくてたまらないし、チームメイトや応援してくれる人などいろいろな人との出会いが何よりもうれしい」と、笑顔を見せます。

日本代表に選出されたことで、プレッシャーを感じるときもありますが「成長するためのいい刺激になっている」と、いつでも前向きです。さらに、自分に自信が付き、たくさんの人とつながりたいと思うようになったといいます。「私ですら初対面の車いすの人になど接したらよいか戸惑うので、気軽に何でも聞いてほしい。そして、障害者スポーツを身近に感じてもらえたら」と、微笑みます。「これからも代表に選ばれるように、目の前のことを確実に達成して結果を残し、次のパラリンピックに出場したい」2年後のリオ五輪を目指し、乗松さんは全身全霊をかけて突き進みます。

※シャルコーマリー・トゥース病



1. 車いすラグビーは、バスケットコートでバレーボールほどの大きさのボールを奪い合います。パスやドリブルでボールをつなぎ、敵陣のゴールラインへ運びます。写真は走りこみの練習風景。荒尾で練習を手伝ってくれる人を募集しています。2・3. 沖縄ハリケーンズのメンバーはかけがえない存在です。4. 日本代表の試合。ことし、6月に行われた世界大会では3位に輝きました。